



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 濫澤倉庫本牧心頭計画	階数	地上4F
建設地	神奈川県横浜市中区本牧心頭8番113	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	36人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2022年12月15日
敷地面積	8,200 m ²	作成者	柳安藤・間一級建築士事務所 室田 武志
建築面積	5,897 m ²	確認日	2022年12月15日
延床面積	22,656 m ²	確認者	柳安藤・間一級建築士事務所 室田 武志

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 92 (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 53%

③ 上記+②以外の: 53%

④ 上記+: 53%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 2

LR1 エネルギー: 3

LR2 資源・マテリアル: 4

LR3 敷地外環境: 2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.6

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> 緑化面積の確保(屋上緑化の配分) 太陽光パネルの計画 定温定湿倉庫の断熱、結露対策 	0
Q1 室内環境 建物内は禁煙としている。	Q2 サービス性能 ゆとりのある執務スペースを確保し、リフレッシュスペースを設けている。 階高にもゆとりを持たせた設計とし、壁長さ比率を低く抑えるなど、建物のサービス性能の向上に努めている。
Q3 室外環境(敷地内) 外構緑化指数16.3%とし、屋上緑化を行い、その他の項目についても敷地内環境に配慮した設計としている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率53%とし、光害抑制にも配慮した設計としている。
LR1 エネルギー BPI _m =0.71、BEI _m =0.00としている。	LR2 資源・マテリアル 節水型の器具やLGS地下、リサイクル材を説教的に採用している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

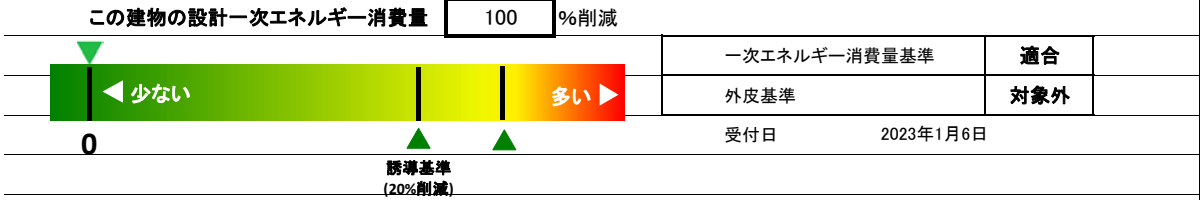


4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 (仮称) 澁澤倉庫本牧ふ頭計画

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 5

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①BPI_m=0.71

③BEI_m=0.00

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 2

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑪F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑰空調・給排水配管の更新対策に配慮

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入 太陽光利用	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
エネルギーマネジメントシステム導入 — —	



CASBEE横浜2022年版v.1.1
(仮称)滋澤倉庫本牧ふ頭計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質					-		-			2.5
Q1 室内環境					0.31					2.9
1 音環境				3.0	0.15	-	-			3.0
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-			-
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-			-
1		開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-			-
2		界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-			-
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			-
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			-
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-			-
2 温熱環境				2.6	0.35	-	-			2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-			-
1		室温	快適・働きやすさ	3.0	0.38	-	-			-
2		外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	3.0	0.25	-	-			-
3		ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	3.0	0.38	-	-			-
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-			-
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-			-
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-			3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-			-
1		昼光率	快適・働きやすさ	3.0	0.60	-	-			-
2		方位別開口	快適・働きやすさ	-	-	-	-			-
3		昼光利用設備	快適・働きやすさ	3.0	0.40	-	-			-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-			-
1		昼光制御	快適・働きやすさ	3.0	1.00	-	-			-
3.3 照度				3.0	0.15	-	-			-
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-			-
4 空気環境				3.2	0.25	-	-			3.2
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-			-
1		化学汚染物質	快適・働きやすさ	3.0	1.00	-	-			-
4.2 換気				3.0	0.30	-	-			-
1		換気量	快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-			-
2		自然換気性能	快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-			-
3		取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-			-
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-			-
1		CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-			-
2		喫煙の制御	快適・働きやすさ	5.0	0.50	-	-			-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-			3.3
1 機能性				2.9	0.40	-	-			2.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-			-
1		広さ・収納性	快適・働きやすさ	5.0	0.33	-	-			-
2		高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-			-
3		バリアフリー計画	快適・働きやすさ	1.0	0.33	-	-			-
1.2 心理性・快適性				2.6	0.30	-	-			-
1		広さ感・景観	快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-			-
2		リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	4.0	0.33	-	-			-
3		内装計画	快適・働きやすさ	1.0	0.33	1.0	-			-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-			-
1		維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-			-
2		維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-			-
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-			3.1
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-			-
1		耐震性	防災	3.0	0.80	-	-			-
2		免震・制振性能	防災	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30	-	-			-
1		躯体材料の耐用年数	防災	-	-	-	-			-
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	3.0	0.25	-	-			-
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	3.0	0.13	-	-			-
4		空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	3.0	0.13	-	-			-
5		空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	5.0	0.25	-	-			-
6		主要設備機器の更新必要間隔	防災	3.0	0.25	-	-			-
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-			-
1		空調・換気設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
2		給排水・衛生設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
3		電気設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
4		機械・配管支持方法	防災	3.0	0.20	-	-			-
5		通信・情報設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
3 対応性・更新性				4.2	0.30	-	-			4.2
3.1 空間のゆとり				5.0	0.30	-	-			-
1		階高のゆとり		5.0	0.60	-	-			-
2		空間の形状・自由さ		5.0	0.40	-	-			-
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.30	-	-			-
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-			-
1		空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
2		給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
3		電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-			-
4		通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-			-
5		設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2022年版v.1.1
 (仮称) 滋澤倉庫本牧ふ頭計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数				
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39	-	-			1.6	
1	生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	18生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-			2.0
2	まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	19まちなみ・景観への配慮	1.0	0.40	-	-			1.0
3	地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-			2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	20地域性への配慮	2.0	0.50	-	-			-
3.2	敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	21敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.9	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			4.4	
1	建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	1建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-			5.0
2	自然エネルギー利用		省エネルギー性能	2自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-			3.0
3	設備システムの高効率化		省エネルギー性能	3設備システムの高効率化	5.0	0.50	-	-			5.0
4	効率的運用				3.0	0.20	-	-			3.0
	集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-			-
4.1	モニタリング		省エネルギー性能	4効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
4.2	運用管理体制		省エネルギー性能	4効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
	集合住宅の評価				-	-	-	-			-
4.1	モニタリング		省エネルギー性能	4効率的運用	-	-	-	-			-
4.2	運用管理体制		省エネルギー性能	4効率的運用	-	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			3.8	
1	水資源保護				3.8	0.20	-	-			3.8
1.1	節水				4.0	0.40	-	-			-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.7	0.60	-	-			-
1	雨水利用システム導入の有無				4.0	0.70	-	-			-
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-			-
2	非再生性資源の使用量削減				4.0	0.60	-	-			4.0
2.1	材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-			-
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-			-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用				5.0	0.20	-	-			-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				5.0	0.20	-	-			-
2.5	持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-			-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.20	-	-			-
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.20	-	-			3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用				5.0	0.30	-	-			-
3.2	フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-			-
1	消火剤				-	-	-	-			-
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-			-
3	冷媒				3.0	0.50	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.5	
1	地球温暖化への配慮				4.8	0.33	-	-			4.8
2	地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-			2.5
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-			-
2.2	温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-			-
2.3	地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-			-
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-			-
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
3	交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
4	廃棄物処理負荷抑制				4.0	0.25	-	-			-
3	周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-			3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-			-
1	騒音				3.0	0.33	-	-			-
2	振動				3.0	0.33	-	-			-
3	悪臭				3.0	0.33	-	-			-
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-			-
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-			-
2	砂塵の抑制				1.0	-	-	-			-
3	日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-			-
3.3	光害の抑制				4.4	0.20	-	-			-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				5.0	0.70	-	-			-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目											
<事務用途>											
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	22知的生産性向上への取組	3.0	-	-	-			-	
<住宅用途>											
健康と安心											
1	化学汚染物質の対策		健康・安心	6健康対策	-	-	-			-	
2	適切な換気計画		健康・安心	6健康対策	-	-	-			-	
3	結露・カビ対策		健康・安心	6健康対策	-	-	-			-	
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	7防犯対策	-	-	-			-	